

福岡県姫島(志摩町)の事例

姫島では、昭和50年に少子化の進行から志摩中学校姫島分校の本土側中学校への統合問題が持ち上がりました。

島の住民の方々は、学校の統合が島の過疎化に拍車がかかるとの懸念から「**姫島振興委員会**」(オブザーバーを学校長とし、漁協、婦人部、青年団の代表者で構成)を設立し、少子化への対策を講じました。

その対策としては、何よりも嫁問題がある中で、①デートの時間や交流の場が計画的に取れるよう、また、漁業離れを抑制するために、**毎月第3土曜日を漁休日とする**②従来は、し尿を汲み取りし、畑に掘った穴に捨てて処理する仕事は女性が行っていたが、こうした状況では本土から嫁に来てもらうことが難しいと考え、**改善策を町に申し入れる**、ということでした。

こうした対策の効果として、**平成4年には全島水洗化**が実現し、また、従来よりも多種にわたる漁業種類に取り組むことで、安定的な漁業収入を維持できたこともあり、平成5年には本土との間で5組の結婚が成立、その後も順調に結婚がまとまっています。

また、昭和50年には15名程だった小中学生が倍以上に増え、島に子どもたちの声が響くようになり、平成8年には小中学校併設ながら校舎が新築されました。

現在は、島の小中学生が手作りで運動会を開催し、島全体が協力するなど、地域の自主性を尊重したコミュニティづくりが進められており、今後も「**姫島振興委員会**」を中心とした取り組みが期待されます。



姫島



姫島小中学校



姫島運動会のようす



姫島大文化祭で合唱する子どもたち